



災害の防止と消防活動の安全を誓う

平成二九年度殉職消防職団員慰霊祭

平成二九年度(第八九回)殉職消防職・団員慰霊祭が、八月二三日(水)午前十一時から秋田市千秋公園本丸の「殉職消防組員招魂碑」前において、秋田県消防協会が祭主となり執り行われました。

慰霊祭には、ご遺族の方一六名のほかご来賓、消防協会役員など五二



題 字
初代会長 松野 盛吉
定 価 1部 48円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中田 潤
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
<http://www.shoubou-akita.or.jp>
E-mail:ask@shoubou-akita.or.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760
<http://www.matsubarainsatsu.co.jp>

平成二九年度全国統一防火標語
火の用心
ことばを形に
習慣に

名が参列しました。

慰霊祭は、招魂などの神事後、中田潤秋田県消防協会長が「招魂碑に合祀されております四五柱の御霊は、郷土の平安と地域住民の安心・安全を願い、我が身の危険をも顧みず勇猛果敢に懸命な消防防災活動を遂行するなか、尊くも職に殉じられました。不屈の消防魂をもって最後まで消防人としての職責を全うされたその崇高な精神は、県内消防人の鑑であり、今も私達の心に生き続け、皆が等しく賛辞するところであります。我々消防人は、郷土愛護の精神と強固な団結力をもって、御霊のご遺訓を胸に、

一致団結して厄災を防止し、地域住民の安全・安心のため最善の努力を尽くすことを誓う」と祭主祭文を奏上しました。



堀井啓一秋田県副知事はご来賓を代表して「殉職者の皆様が身をもって示された崇高な精神と果敢な行動は、着実に本県消防人の間に受け継がれております。

私たちは、皆様の御功績を心から讃えるとともに、その御遺志に応えるためにも、今後も消防、防災体制の強化に努め、県民が安全、安心に暮らせる社会の構築のために、全力で取り組むことを誓う」と慰霊のことばを述べられました。

公益財団法人日本消防協会長のメッセージの紹介に続き、玉串奉奠が行われ、中田会長、ご遺族を代表して鹿角市の工藤昭子様、ご来賓の方々が御霊の冥福を祈り、最後に送魂の神事が行われ、慰霊祭は滞りなく終えました。



**第七一期初任教育入校生
殉職消防組員招魂碑を清掃**
秋田県消防学校

秋田市千秋公園本丸に建立されている「殉職消防組員招魂碑」の清掃は、毎年、秋田県消防学校初任教育課程の情操教育の一環として行われています。

今年も、八月二三日(水)開催の慰霊祭に先立ち、一八日(金)に六一名の入校生によって行われました。

清掃は、碑内の玉石を移動させて枯れ葉やゴミを除去したり、碑周囲の雑草などを取り除いたほか、碑に付着したコケなどの汚れを水をかけて洗い流しました。清掃後、参加者全員が「招魂碑」に向かい黙とうを捧げました。

入校生の皆さんありがとうございました。



第二回理事会

秋田県消防協会

一般財団法人秋田県消防協会第二回理事会は、八月二三日(水)、平成二九年度殉職消防職・団員慰霊祭終了後、秋田市中通の「イヤタカ」で開催されました。主な協議事項、報告事項についてお知らせします。

【協議事項】

①日本消防協会定例表彰の上申
表彰旗、卒頭綬などの表彰(功績章及び精績章の女性枠各一名を含む)については、各支部内申のとり、特別表彰まといは小坂町消防団を上申することとしました。
なお、優良婦人消防隊(消防隊員)に関しては、支部からの内申はありませんでした。

②秋田県消防協会定例表彰

いずれの表彰種別も各支部から上申の上お授与することが承認されました
・勤続章
六七〇名



・功労章 二六名
・消防団員家族表彰 四家族(一二名)
③秋田県消防操法大会

○平成三〇年度の大会から「予備日」を設けることについて、各支部から意見を聞いた結果、従前のとおり予備日は設けないうことに決まりました。

○今年度の大会で次の二隊が「規律訓練」を披露することになりました。
・能代市消防団能代第一二分団
・横手市大森消防団第七分団

④秋田県消防協会の運営(収支)状況について

各理事から収入の確保方策についてそれぞれ発言がありました。
なお、今後も引き続き検討していくこととしました。

【報告事項】

①平成二九年度消防車両の交付要望
二消防団から交付の要望がありました。
同年度に同車種は申請できないため、一団体(大館市消防団)のみ申請しました。

なお、日本消防協会から本県に対して特別枠で消防車両(軽自動車)を交付する連絡がありました。車両を希望する消防団を協会事務局あて連絡してもらった上で、

会長が最終決定することを理事会が了承しました。

☆日本消防協会への回答期限.. 八月末

②平成二九年度秋田県女性消防団 ネットワーク会議

五月二日(火)に開催した、女性団員九名で構成する「開催準備委員会」において、今年度は一月二五日(土)に開催することを決めました。

なお、八月二九日(火)に二回目の委員会を開催し、会議の内容などについて協議することとしています。

③全県消防団長研修会

一二月一日(金)に開催します。課題討議、意見交換のテーマなどは決まり次第、各消防団に連絡します。

④消防団員研修

■第七期女性消防団員教育

一〇月二八日(土)～二九日(日)
場所..秋田県消防学校

■消防団員指導員研修

一二月二五日(土)～二六日(日)
場所..秋田県消防学校

■消防団員幹部教育指揮幹部科
分団指揮課程

平成三〇年三月三日(土)～
四日(日)
場所..秋田県消防学校

■消防団員基礎教育

平成三〇年三月一〇日(土)～

一一日(日)
場所..秋田県消防学校

■消防団員幹部教育指揮幹部科
現場指揮課程
平成三〇年三月一七日(土)～
一八日(日)

場所..秋田県消防学校

※日本消防協会主催の研修は秋田県消防協会へ、消防大学校が開催する研修は県総合防災課にそれぞれお問い合わせ下さい。

第三回全国女性消防操法大会

日時..九月三〇日(土)

午前九時開始

場所..向浜運動広場駐車場

(こまちスタジアム駐車場)

開催まであと二週間となりました。本県代表として、「大仙市女性消防隊」が出場します。

皆様には、大会会場での応援をお願いいたします。

☆女性消防団員(応援者)には助成金を支給します。

『地域を守る 秋田・消防防災展』、『消防団交流 秋田・物産展』も同時開催します。

秋田県内の消防団員が生産した物品の販売なども行います。

第13回 消防団員意見発表会(一)



小川 洋平
秋田市消防団 班長
勤続一六年
会社員

責任感が強く、消防団活動では地域の消防訓練や消防操法で力を発揮し、後輩団員の目標となっています。

「減少する消防団員を維持するために」

「消防団員確保に懸念」五月二三日の新聞記事が目にとまりました。そこには、秋田県内の四月一日現在の消防団員数が一六、九一二人となり、過去最少を更新し、人口減少や少子高齢化が進む中、災害時に活躍が期待される消防団員の確保が今後の大きな課題であることや、先進地の取組が紹介されていました。私の所属する秋田市消防団も例外ではなく、ここ数年の団員数は横ばい若しくは減少傾向にあります。このような状況の中、私が配属されている土崎南分団では、常に団員数を維持しており、私なりの「団員数を維持している訳」についてお話しさせていただきます。

ていただきます。

私の住む土崎地域は秋田市の北部に位置し、重要港湾となつていいる秋田港を擁し、北前船の寄港地として栄えた港町です。約三〇〇年前に船乗り達が神輿を寄進して始まったとされる土崎神明社祭の曳山行事が行われる地域です。

この曳山行事の本番は、毎年七月二〇日、二一日の両日に行われ、二〇数台の山車を、お囃子を奏でながら、土崎全域を曳き回すという盛大なお祭りです。その二日間、普段は約二万人の地域人口が、三〇万人にのぼるといわれ、当市の「竿燈まつり」と並ぶ、お祭り行事であります。また、一年を通じて多彩な神事が行われ、国指定の重要無形民俗文化財となつており、昨年一二月にはユネスコ無形民俗文化遺産にも登録され、全国的にも注目されている行事です。

当然ですが、我が分団員の多くは、この曳山行事に参加しており、各町内会のリーダー的役割を担った方も少なくありません。

この港町、土崎に生まれ育つた私が消防団に入団したきっかけは、同じ町内会の先輩団員からの勧誘でした。その先輩は消防団活動は当然のこと、側溝の清掃や冬場の除雪など、ボランティア活動も率先して行う、後輩からも非常に慕われている存在です。

消防団活動は、現場活動や訓練、予防広報など多岐にわたりますが、操法大会への熱い思いを会場の皆さんも持ちのことと思います。

当分団では市の操法大会に、毎年ポンプ車操法の部で出場しています。大会は七月初めに行われますが、五月に練習を開始すると間もなく、六月には各町内の曳山の組み立てを始めます。操法と祭りの同時進行です。

私も「消防馬鹿」、「祭り馬鹿」を自負しておりますが、この三ヶ月間は、非常に忙しく厳しい期間となります。

ちなみに今年の操法大会は、七月九日でしたが、成績は一〇分団中七位と半端な順位でした。仮に操法大会が九月に開催されれば、我が分団も優勝できると、常々仲間と話をしています。

しかし、この両立を目指す行動が、操法大会をやり遂げた時の達成感と、数日後の迫った曳山行事への期待感、高揚感となり、私たちにしか感じ得ない、独特の感覚となっており、それが消防団と曳山行事、そして人と人との関係を深くしているのだと思います。

少し大げさですが、土崎の人々は曳山行事という共通した基盤の上で一年を過ごし、一年に一度集い、曳山を組み、曳きまわす。そして、酒を酌み交わし、語り合う。昔からの伝統や風習が、深い人間関係を構築

しているのです。その延長線上に消防団があり、それが団員数を常に維持している訳だと考えます。

今後も伝統や風習そして、人と人との繋がりを大切に、団員数を維持させながら、地域を愛する一人として、地域防災に貢献できるように、頑張っていきたいと思えます。



佐藤めぐみ
由利本荘市消防団 団員
勤続一年
農業

防火・防災の意識啓発に向けた活動には積極的に参加しており、消防団員のみならず、住民からも厚い信頼を得られています。

「駆け出し女性消防団員としての試行錯誤」

私が消防団に入団したのは、二年前のことです。大学卒業直後から地元に分団に勧誘を受けていました。が、「消防団に入ったら好きなだけ酒を呑ませる」「大会で指揮者を任せる」「火事になったら最前線で筒先を持たせてやる」「初の女性分団長にする」等、どこまで冗談かわからない話だったので適当に躲していました。その後、由利本荘市消防団で女性部の設立を目指すにあたり、女性消防団員として入団しないかとお話を頂きました。広報活動が中心

とのことだったので、それならでき
るかもしれないと入団を承諾しまし
た。しかし、当時二人しかいなかった
た女性消防団員の先輩の方から詳し
く話を聞いてみると、ある程度人数
が揃うまで女性部は設置できない、
活動内容は行事運営の手伝い以外は
ほぼ未定という手探りの状態だった
のです。何を手伝えるのか不安の
中、経験豊かな先輩方が活動の大枠
を作ってくれました。

現在、女性消防団員が中心となっ
て取り組んでいるのは、幼児向けの
防災教室です。年に数回、保育園や
幼稚園を訪問し、ゲームやダンスを
交えながら子どもたちに災害時の身
の守り方を教えています。二回ほど
の見学を経て、私は話の要となる部
分（地震の時は頭を守ってダンゴム
シのポーズ等）の説明を任せられるよ
うになったものの、とにかく失敗と
反省の連続でした。大学でやった卒
論発表会とは違い、子ども相手には
笑顔で、声のトーンを高く、簡単に
つ子ども心をくすぐるような言葉選
びを心掛けながら、ゆつくり話さな
ければなりません。慣れない話し方
に気を取られ、内容をすっ飛ばして
ほかの団員の方にフォローしてもら
うことも多々ありました。まだ拙い
防災教室に反省点は絶えませんが、そ
れでも子どもたちは保育士の先生
方が驚くほどしっかりと耳を傾けて
くれます。似たような内容は保育園

や幼稚園の方でも一通り教えている
そうですが、消防士や消防団員とい
う『本物の人たち』に来てもらうと
子どもたちの食いつきが違おうと
我々大人も改めて気づかされること
がある、命を守る上で大切なことだ
から本当に助かると言って頂けまし
た。

この『本物の人たち』という表現
に、私ははっとさせられました。情
報化の進む現代、防災や被害の軽減
のための情報はいくらでも手に入れ
ることが出来ます。しかしその中に
あっても、災害の現場を知り、また
消防本部と緊密な関係にある消防団
員が語る言葉は大きな力を持つので
す。

それまでの私は、やれと言われた
ことを何となくやっていました。し
かし、活動の重要性について改めて
実感し、市民の命を守る消防団の一
員としての自覚と責任を意識するよ
うになりました。今のところ、私は
広報活動のみの参加ですが、いずれ
は災害現場を体験し、その経験を広
報活動に反映していければと思っ
ています。

現在女性消防団員は七名に増え、
広報活動に加わってくれる学生消防
団員が今年度、三名入団してくれま
した。幼児向けの防災教室は今後も
続けるにあたって、増えた人数に合
わせて流れを一新し、双方向性を高
めたり、小芝居を入れたり内容の

バリエーションも増やしていく予定
です。また、五月に行われた消防署
での市民ふれあいイベントで消防団
の知名度がまだまだ低いと感じさせ
られたことから、市内の祭りなど
様々なイベントで消防団員募集のア
ピールにも取り組んでいきたいと思
っています。

今はまだ駆け出しの私ですが、い
ずれは女性消防団員という立場に恥
じない女性を目指して頑張ります。



西宮 三春
仙北市消防団
班長
勤続八年
販売員

広く消防団活動に貢献すると
もに、消防署職員と連携しなが
ら、応急手当普及員として救命講
習を実施している。

「私は消防団員です」

「女性消防団員なんて税金の無駄
だ。今すぐ、やめてしまえ。」買
物に来ていた市民の方から投げられ
た一言に、私はショックで頭が真っ
白になりました。地域に貢献しなけ
れば、税金の無駄と言われても仕方
がないことに、私は初めて気づかさ
れたのです。

九年前、主人と共に入団した私
は、活動内容を知っていたわけでも

消防に対し高い志があつたわけでも
ありませんでした。それでも同時入
団の三人の女性と仙北市初の女性消
防団員として、広報誌に大きく取り
上げられたのです。そして、入団し
てすぐの地元スーパーでの入団促進
キャンペーンで、この思いがけない
厳しい一言を受けてしまったので
す。

そこで、まずは顔の見える消防団
員を目標に、毎月、広報誌に活動内
容や写真を紹介することをお願いし
ました。これを継続した結果、市民
の理解を得られたほかに、女性の入
団者が徐々に増え、現在の一四名ま
でになったのです。そして、全国の
女性団員と交流する機会にも恵ま
れ、地域防災のために、私たち女性
だからできる様々な活動があること
を知ることができたのです。

その矢先起きてしまったのが、平
成二五年八月九日の土石流災害で
す。局地的集中豪雨により、土砂が
住家を襲い、六人の尊い命が奪われ
たのです。地元消防団は、必死にな
って、土砂に飲み込まれた住民の捜
索に当たっていました。私達にも何
かやらせてくれるよう団長に必死に
頼み込み、団長から現場への出動要
請が出ました。災害現場に初めて出
動する私達は、男性団員の足を引っ
張らないよう、各自がしっかりと準
備をして現場に向かいました。現場
のあまりに悲惨な状況に言葉を失い

ましたが、やらなければという使命感の方が強かったです。湿気が多い真夏の高温の中で、早朝から搜索している団員に、飲物やおにぎりを配り、必死になって後方支援を行いました。厳しい暑さと深い泥の中の搜索で体力を奪われ、足取りも重く戻ってくる団員の姿を見て「お疲れ様です。冷たい飲物をどうぞ」と大きな声で呼びかけ、一人一人に手渡しました。少しでも元気に振る舞っていかねければ、先の見えない搜索に精神的に絶えられないことを強く感じました。また、不安そうに見守る地域住民に寄り添ったり、土砂の中から見つかった家財道具や思いつきの泥を丁寧にとったりと、刻々と変化する現場の状況に合わせて、きめ細かく対応しました。私達は、直接の搜索はできませんでしたが、緊迫した現場で、女性の視点を積極的に取り入れてくれた団長と幹部のご理解があり、経験を積むことができました。

数ヶ月後、住民から声をかけられ、「あの時、現場に来てくださったべ、怖い思いさせてごめんな。でも、来てくれて本当にありがた」と言ってくれ、私の手を握ってくれました。住民の役に立てたことを強く実感し、涙が止まりませんでした。

この経験から、悲しむ人が一人でも少なくなる地域を目指し、私は、

応急手当普及員として救命講習の指導に当たっています。また、防災教育にも力を入れ、子どもたちが消防団へ憧れと理解を持ち、将来の入団へ繋げたいと思っています。家族や地域の方の協力で活動できていることに感謝し、様々な技術の向上に努め、歩き始めた消防団員としての人生を、今後も力強く進んでいきたいと思えます。



実務研修を行い、自分の所属での役割について理解しました。

今までも何となく理解していましたが、消防の仕事は現場での仕事よりも、消防署で行う事務的な仕事が多いことを理解しました。しかし、事務的な仕事は、火事等を未然に防いだり軽減したりするために大切な仕事だと思えます。今回で三回目の実務研修となりましたが、火災現場に出場することはありませんでした。事務的な仕事については各所属によって異なるため、消防学校を卒業して所属に帰ってきた時に勉強していきたいと思えます。

消防学校生活も残り一ヶ月となりました。所属での自分の役割について理解するとともに、今消防学校でやらなければならないことがあると思えました。それは、基本的な手技について今一度理解することです。それを意識して頑張っていきます。



金子 祥大
秋田市消防本部

期 71 教 初任
実務研修を終えて
秋田県消防学校

今回は三回目の所属での研修で、自分の未熟な部分を改めて実感することができた。基本結索では、普段の訓練であまり使用しないもののほか、二重もやいや三重もやいの作成など、忘れてしまっていたり、素早く行えなかったりするものがあった。ホースの引き揚げでは、今までの行ったことのないはしごへのホース結着を応用として初めて行うことができたので良かったと思う。応急はしごでは訓練で教わったことを生かして行えたが、細かいところがまだまだ甘かったので突き詰めていく必要があると感じた。

今回は最後の実務研修ということ、今まで学校でやってきたことを、所属でどれだけできるかを念頭に置いて研修に臨んだ。前回よりも間違いなく上達したものがあつたと思うが、やらないことで忘れてしまっているものもあり、再度復習する必要があると感じた。

修了式まであと一ヶ月と少ない期間であるが、校長査閲に向けて、また所属で即戦力になれるよう各訓練の習熟度を高め、自分の技術を磨き、知識を身に付けられるようにしたい。



金 尚高
秋田市消防本部



戸松 恒希
能代山本広域市町
村圏組合消防本部

今回の実務研修は泊まり勤務二回目でした。前回同様、私たち初任科生は災害発生時に乗り組みの車両があたつておらず、通信業務の補助をすることとなりました。

午前中の業務は、通信業務でした。電話での問い合わせ等に対応しました。午後からは、小型ポンプ操法の訓練を実施しました。私は一番員をやり出しながら実施しました。その後、先輩方から速さを重視しての操作を教えていただき、技術に磨きがかかりました。

夕方からは、事務処理を中心に行いました。私は警防担当ですので、気象データを取りまとめたり、決裁が終わった文書をファイルにとじたり、やるべきことは沢山ありました。また、空気ボンベの充填、コンプレッサーの定期点検も行い、自分が所属に戻ってからやなければならぬ業務を今一度再確認しました。長いと思っていた消防学校の生活も、いよいよ一ヶ月となりました。最後まで気を抜かず、自分の知識・技術を高めるために頑張りたいと思います。



佐藤 太樹
秋田市消防本部

三回目の実務研修ということでは、所属の雰囲気もだいぶ理解でき慣れた。所属で行う訓練も前回よりレベルが上がリ、より実戦に近いものだった。呼吸器は学校で使用しているものと違っていて着装に苦勞したが、普段使っているものよりも非常に使いやすかった。訓練自体は学校で行っていることと大して変わらなかつたが、普段と違う環境でも以上に緊張したせいも、誤った判断や結索のやり方を忘れていたり、自分の力を十分に発揮することができなかつた。どんな状況でも冷静に自分の持てる力を発揮できるようにしたいと強く思った。九月から行う庶務の仕事について教わった。話を聞いていると、庶務科の事務量は非常に多く、さすがに一日では覚えきれないけれど、少しでも早く戦力となれるよう仕事を覚えたいと思う。

消防学校で学んでいることは、基本中の基本であり、現場や所属のやり方と少し違いが生ずることもあるが、先ず私たちが覚えることは基本であり、所属でのやり方は基本を身に付けている上で行き着いたことなので、残り一ヶ月全力で頑張ろうと思う。



小貫 慧太
大館市消防本部

八月一四日、一五月初任期間中最後となる実務研修を行いました。前回と同様に二四時間勤務も経験しました。今回は梯子車点検、車両の一ヶ月点検、放水訓練、結索訓練、通信指令室での夜間勤務を行いました。

放水訓練では、建物火災で上階を火点と想定して行いました。頭では理解できていても、早く放水出来る態勢を作らなければという焦りから、要領の悪いホース延長の仕方をしてしまったり、ホースの脱落防止が不十分だったので訓練を繰り返して、身に付けたいと思います。また、筒先担当の時に機関員との情報交換を無線とする際に、自分の動きで手一杯となり、放水が遅れたので視野を広く持つという重要性も改めて学びました。

三度の実務研修を経験し、消防士は様々な知識を持つていなければならぬと感じました。車両点検を行う際や作業を要領良く行う方法、事務処理の知識など、火を消したり、人を救う以外にもやらなければいけないことが山ほどあるので、消防士としてだらしないやわれないように頑張っていきたいです。



進藤 陽祐
秋田市消防本部

八月一四日、秋田南消防署にて実務研修を行いました。出動の機会はありませんでしたが、常に出勤体制をとることを心掛けました。出動訓練では防火衣を着装し、車内で空気呼吸器を着装しました。車内での着装は初めてだったので、スペースが狭く大変でした。その他、屋内進入訓練や三連梯子による二階への進入、ロープで筒先を引き上げ等を行いました。私が指摘された点は、呼称の音が小さいということです。

一回目は、手技に自信がなく声が小さくなってしまいました。しかし二回目以降は、大きな声を出して訓練を実施することができました。現場では、雑音で声が通りにくいこと、何の手技をやっているのか他の隊員が分からないと指摘されました。先輩方の前での訓練であったため、萎縮してしまつたのですが、現場では多くの野次馬や関係者が見ていきます。市民からすれば頼りのない隊員と見られてしまうと思われました。残りの学生生活では基本手技を安全・確実・迅速にできるように取り組んでいくとともに、大きな声を出して訓練をしたいと思います。



杉江 瞳莞
鹿角広域行政
組合消防本部

第三回実務研修を終えた。これまでの二回の研修に比べ、署の雰囲気にも慣れ、仕事を効率良く行えた。車両点検や資機材の名前も少しずつだが覚えてきている。

沢山教わってきた中で印象に残った訓練が救急と単隊活動要領だ。救急ではBLSを行った。学校で勉強していたが、ど忘れしてしまうことが多かった。一番大切な処置を正確にできない自分が情けなかった。所属に戻るまでの一ヶ月間、少ない時間の中で気を抜かず努力していかなければならぬと、改めて自覚した。単隊活動要領では、学校で学んだ火点直近の化学車にポンプ車のホースを結合するという訓練を行った。戦術などを詳しく教えていただき、現場活動のイメージがこれまでより更に膨らんだ。しかし、ホースバックを搬送する際に使用方法が分からずにホースを全て落としてしまった。現場でこのような失敗をしないように今後は落とさないようにと誓った。

今回の実務研修で学んだことは、これからの消防生活で必ず必要なことばかりだ。当たり前の事を当たり前にできるように努力して行きたい。



村岡 僚太
大曲仙北広域市町
村岡組合消防本部

今回、三回目である実務研修は大曲消防署でした。訓練は基本結索から始まり全員が作ったもやい結びを集めて、全てのもやい結びの形が同じであるか確認するものでした。今ではみんなが当然のようにできると思っていたもやい結びでしたが、わかの大きさが違ったり、端末の長さや直さなければなりません。無駄なミス無くしなければいけないと感じました。応急梯子訓練では、やることは分かっているのにやれませんが、スピードが遅く応急ではなくなってしまっている。一つ一つの行動を速くして全体のスピードを上げる必要があります。一つ一つのスピードを上げるには、訓練を数多くこなすことだと思おうので、自分に足りないところ、自分に必要なところの訓練を沢山行い、ミスなく確実にスピードを上げるよう努力しようと思います。

最後の実務研修を終えましたが、これから努力しなければならぬ点が多く見つかりました。消防学校を卒業するまで、もうあまり日がないので時間を有効に使って実力を上げようと思えます。



門脇 諒
大曲仙北広域市町
村岡組合消防本部

今回の実務研修では、前回よりも反省すべき点が多く見つかった。午前中の応急はしご救出では、三重もやいを作るのが遅くて三番員の登るタイミングまで遅くなってしまった。このことは、前にも教官に注意されたことだったので出来なくて悔しかった。また、午後の完全着装から結索を行いホースを搬送する訓練では、完全着装をするのに大曲の時間より遅くなってしまった。少しの間、訓練をしないだけでどんどん下手になっていくのが分かる一日だった。お盆期間中は、小網で少し結索をしただけで、十分な気になってしまい、それ以外はほとんど訓練を行わなかった。教官からは、「所属に帰ってからじゃほとんど自分で訓練はしなくなる」と言われる。今回の実務研修での失敗は、九月以降の所属に帰ってから家で訓練をしなければならぬと感じた良い機会だった。

残り一ヶ月で基本が中心となる応用や復習で、いかにその時間を濃くものにできたかどうかは、個人の努力も絡んでくると思う。部屋や家で生活をもう一度見直し、濃い一ヶ月を送れるよう努力したい。

株式会社タカギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182) (32) 3880
FAX (0182) (32) 0839

(営業種目)

日本機械自動車ポンプ | キンパイホース
トーハツポンプ | シバウラポンプ
各種消防機械器具 | 各種消火器
消防設備保守点検

ホームページ <http://it-yokote.sakura.ne.jp/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋田県代理店

総合防災設備センター

株式会社 高義商会

(営業種目) トーハツ小型動力ポンプ
モリタ自動車ポンプ
ジェットホース
消防被服全般
消火災報知器各種
消火器各種



〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
TEL(0183) (42) 2125
〒012-0844 湯沢市田町 TEL(0183) (73) 2588

支部情報アラカルト

「猛暑の中の支部大会」

今回は大館北秋田支部から夏だけにホットな話題を提供します。

去る七月三〇日(日)に北秋田市合川市民健康広場を会場に、支部の代表を決めるべく消防訓練大会を開催しました。

規律訓練・ポンプ車操法・小型ポンプ操法の三部門にそれぞれ大館市から二隊、北秋田市から二隊、上小阿仁村から一隊の計一五隊が出場し、熱戦を繰り広げました。大会当日の天気予報が二転三転するなか、一週間前の豪雨のこともあり、開催できるのかと関係者は胃を痛めるほど心配しましたが、当日は当初用意した飲料が不足するほどの好天に恵まれ、選手も日ごろの練習で鍛えた技を惜しみなく発揮できた思い出に残る大会となりました。

各支部で課題と



小限に抑えたかたちで運営した結果、熱中症などで体調を崩す団員もなく、今後もこのプログラムで進行していきたいと思えます。

また、遅ればせながら今年度より消防団員のモチベーションと誇りを高めることを目的に、県大会に倣い、ポンプ車操法・小型ポンプ操法において優秀選手賞を設けました。今後も消防団員のため、より良い大会運営のため、支部事務局は歩み続けていきます。



(情報提供) 大館北秋田支部

火災の発生状況 (速報値)

(秋田県総合防災課調べ)

	平成29年		平成28年			同期比較	
	8月	累計	8月	累計	年計	8月	累計
建 物	16	121	19	138	191	- 3	-17
林 野	1	19	7	32	32	- 6	-13
車 輛	3	20	3	22	32	0	- 2
その他	3	42	6	47	56	- 3	- 5
合 計	23	202	35	239	311	-12	-37
死者数	5	17	1	15	22	4	2
負傷者数	17	53	2	42	54	15	11

消防 半天・帯・団旗
優勝旗・ゼッケン
手拭・タオル・のれん
旗幕類名入染物専門

寺 田 染 工 場

横手市清川町 ☎32-0416

モリタ消防ポンプ シバウラポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 能代消防センター
株式会社 協 立

〒016-0814 能代市能代町字中川原33番地57
TEL (0185) (52) 6494
(52) 6361

地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目1番24号 TEL 018 (863) 1551(代)
山王セントラルビル7F FAX 018 (824) 3651